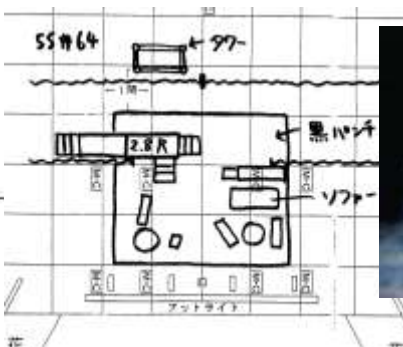
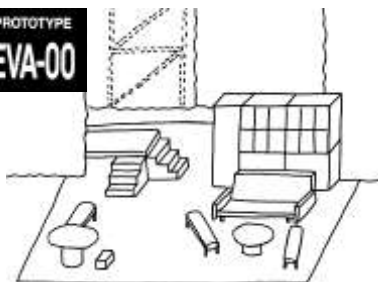


高校演劇 EVANGELION 改

世界を立ち上げる 00

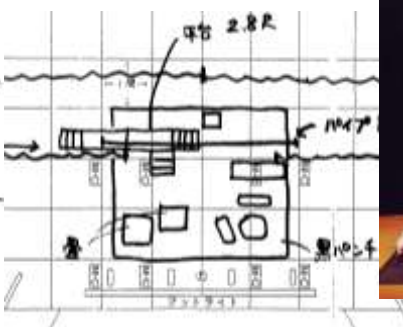
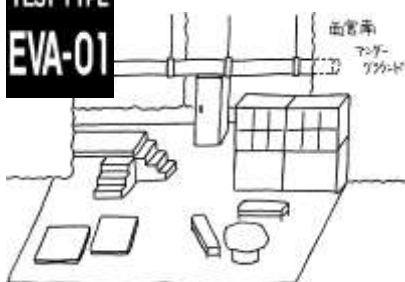
ABSOLUTE
 TERROR FIELD ← R^{EAL}

PROTOTYPE
 EVA-00



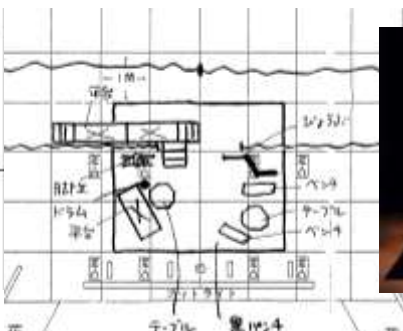
1996 原色菌類大図鑑

TEST TYPE
 EVA-01

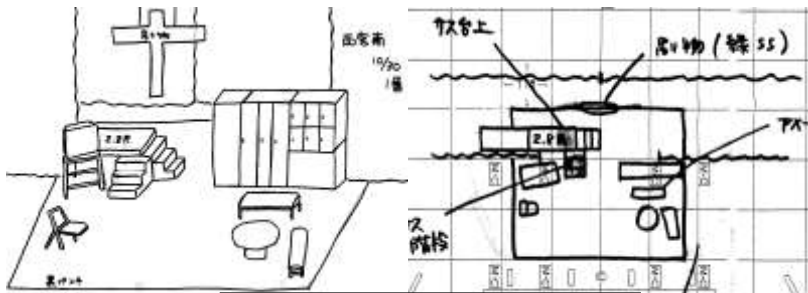


1999 アンダーグラウンド

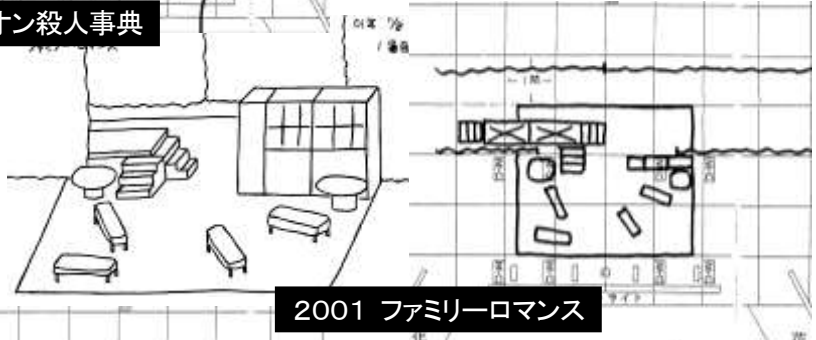
PRODUCTION
 MODEL
 EVA-02



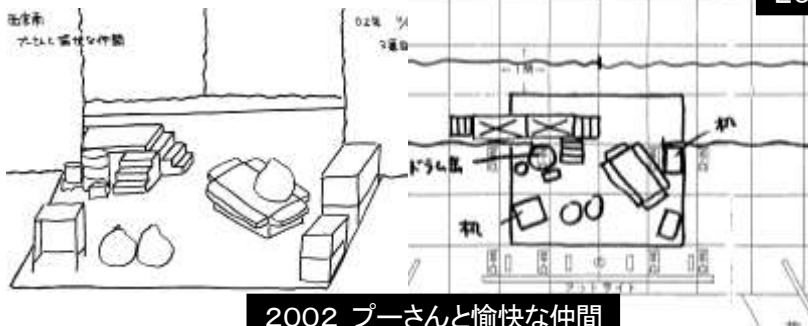
2006 タバコの害について



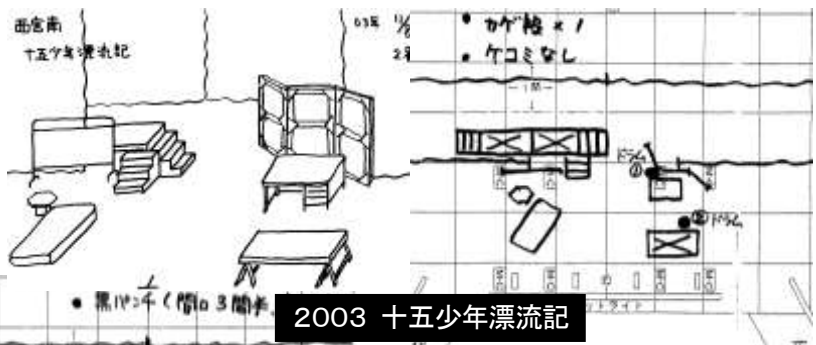
1997 エヴァンゲリオン殺人事件



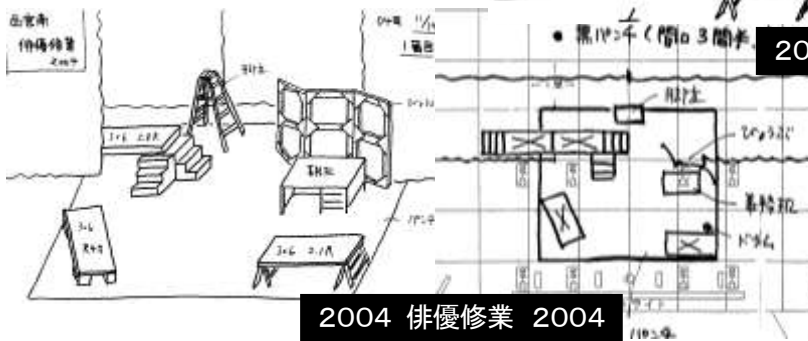
2001 ファミリーロマンス



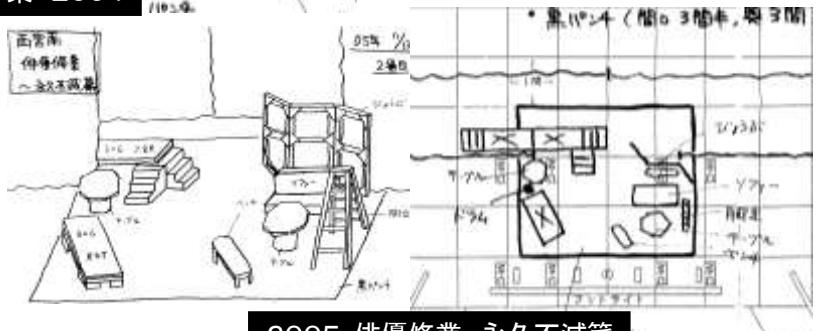
2002 プーさんと愉快的仲間



2003 十五少年漂流記



2004 俳優修業 2004



2005 俳優修業 永久不滅篇

わたしにとってのリアル

ひとつのコトバ、ひとつの場面、ひとつの情景・・・

落とし穴

わたしたち（演じる側）
だけのリアル

・「言いたいこと」は、絶対セリフにしない

・大事なものは じょうずに隠せ
(いいタイミングで見つかるように)

みんな（観客も含めて）のリアル

・嘘は ダメ

あなたの脚本 難度チェック！

1 途中で「わたしにとってのリアル」を手放してないか？

* 「リアル」はこんな姿  をしていて触るとザラリとします

そのまま押しつけられると痛いけど、トゲをなくすと意味がない

2 話が単線で、起承 転結（きれいな終わ り方）だけ追いかけて ないか？

3 自分たちの生き様 と物語が付かず離れ ずの二重構造を作り 出しているか？

4 言葉以外の手段を使って観客に何かを伝えることに、脚本の段階から挑戦しているか？

ダメ本の目安（こんな本は避けたほうがいい）

- 1 神や天使・悪魔が登場。（中林理論1）
 - 2 簡単に人が死ぬ・狂う。（中林理論2）
 - 3 役名がカタカナ。（中林理論3）
 - 4 妙に短いオープニングがついている。（中林理論4の誤用）
 - 5 暗転が多い。しかも具体的な転換で逃げようがない。
 - 6 役者の登・退場がご都合主義。
 - 7 後半の長台詞（手紙、ナレーション）で急に問題が解決する。
 - 8 会話のキャッチボールが成立していない。
 - 9 役名が怪しい。美怒璃とか女美曰とか華紅夜とか。
 - 10 インターネットで拾ってきた。
- 番外 舞台装置が明記されていない。イメージしにくい。

偉大な数学教師は、数学を通して人生を語る。

舞台装置

世界を立ち上げる 02

舞台空間は、3重構造

1 脚本のキャラクターたちの住む世界

(時間でいえば 数秒～数億年、空間でいえば 数 $\text{\AA}$ ～数億光年)

2 生身の役者が演じるためのアクティングエリア

3 客席からのパースペクティヴ

バミリの意味は？

西宮南「アンダーグラウンド」
シリーズの舞台
(1996～2007)

必要にして十分なものを！

大道具搬入口

役者の体重がかかるものは**安全第一**で頑丈に

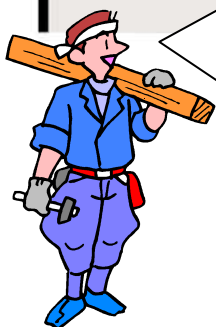
何を どこに飾る？

大きさは 形は？

入り口ドアはないほうがいい

写実なら、『厚みと汚し』を！

非写実(抽象、象徴、使いまわし)の装置は**素材**にこだわれ！



- ・舞台美術です。アートなんだから**美しく**なきゃ！
- ・演技の邪魔になるものはダメ！
- ・1間高のパネルは、低すぎる
- ・吊りものは**舞台の表情を変える**
- ・しかもセッティング・撤収を考えると**軽く**！

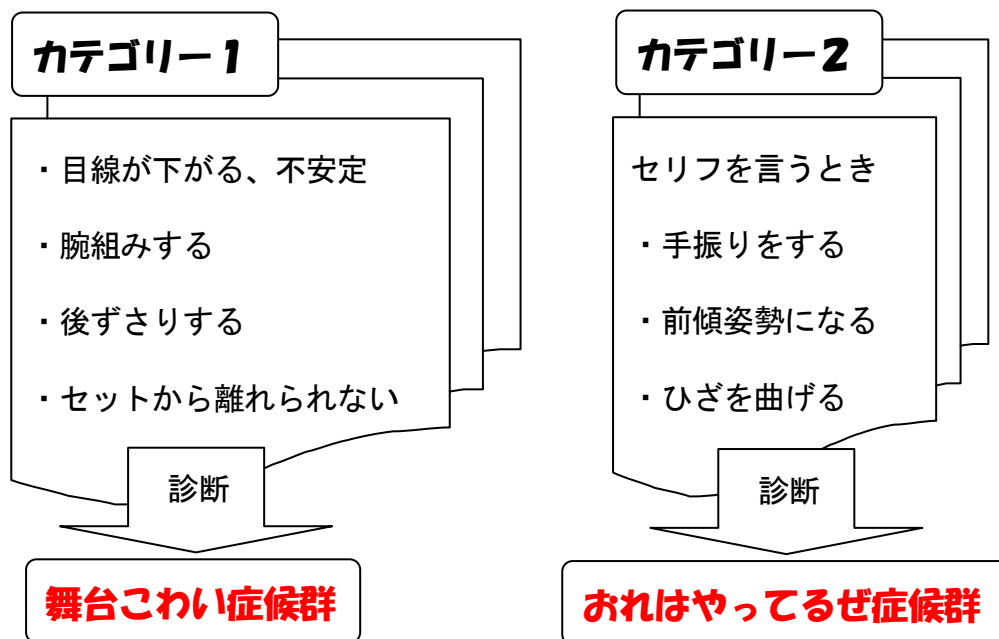
尺(=30.3cm)
を身に付けよう

役者のたしなみ

世界を立ち上げる 03

健康診断 舞台に上がる前、できれば入部当初に受けましょう

⇒ 以下の症状は要注意！（ガッテン、ガッテン、ガッテン）



- ・ どちらも スルーせずに、すぐにダメを 処方して下さい
- ・ 本番までに治らないようなら、小道具を持たせて、落ち着ける場所を与えてやると、とりあえずは なんとかありますが・・・

基礎練の考え方

立ち姿と声の美しい人はそのまま舞台へどうぞ

* 顔が「わさお」君でもかまいません

声と、動きのブサイクは直してから舞台に上がりましょう

* 基礎練を続けると、意外なことに基礎練が多少うまくなります

これを気合十分に繰り返すと、やがて部員全体に

おれたちはやってるぜ症候群

が蔓延し、舞台づくりに影響します。

基礎練では必ず**脱力**トレーニングを！

役者のリアル

世界を立ち上げる 04

わが妄想



『ウィトルウィウスの人体図』レオナルド・ダ・ヴィンチ作

ウィトルウィウス『建築論』第3巻の、理想的な人体図に関する記述をもとに描かれた作品。

ウィトルウィウスは同著で、人体こそが建築様式のオーダーにおける重要な構成要素であるとしている。

「ひととは身体が何をなしうるのかを知らないのだ」

スピノザ

- ・ 役者の身体は、舞台の世界のリアルを支える柱（芝居は役者のもの）
 - ⇒ A TフィールドならぬA Rフィールドが存在する？
 - ⇒ 舞台上の Dead Space の問題
- ・ 役者が登場し、退場することは大事件 ⇒ どこから、どうやって登（退）場するか
- ・ 役者が「動く」とは、舞台上の位置を変えること
- ・ 「役者が見るもの」を観客は見る（月はどっちに出ている？）
- ・ スローモーション・ストップモーションの効果
- ・ ダンスの陥穽（おとしあな） ⇒ おれたちはやってるぜ症候群
- ・ 声（量、色、方向）についての無頓着の危険 ⇒ 通る声をさがしてみよう
- ・ 楽器・歌の効果
- ・ 役者の残り3覚（味、臭、触）が、死んでいないか
- ・ セリフを忘れたら？ ⇒ 例1（1991 尼崎産業）相手役が教えてやる
例2（2002 県芦屋）袖に引っこんで本を見る
例3 舞台各所にカンペを用意
- ・ 100人の杉下右京（「小さな事が気になるのが僕の悪いクセ」）を納得させること